

皆様あけましておめでとうございます！本年もよろしくお願ひ致します。ということで今年も始めました坂井先生コラム！！  
坂井先生の今年の一言目は「どのような方法で新年があけた」・・・もう完全に謎解き問答ですやん？！（^^;）  
一言目ですよ？ちゃうかタイトルの的にこれを持ってくる辺りが違いますねえ〜。  
「相手にわかるように伝える努力」僕もこれをテーマに今年1年頑張ろうと思います。簡単そうでも難しいですよええ・・・。 久田

## 第18回 『わかるように伝えていますか』

香川大学 坂井 聡

どのような方法で新年があけた。

あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願ひいたします。

前回は、本人の得意な面と苦手な面を明らかにしながら、具体的な提案をすることが重要であるということを書いてきました。では、どのような方法で本人の得意なところ、苦手なところを明らかにしていけばよいのでしょうか。

本人が困っていることや、得意なこと、苦手なことを明らかにしていく際に有効な方法の一つは、紙に書いて整理し、一つ一つ確認しながら話を進めていくことです。情報を視覚的に分かりやすくして整理するということが、理解を助けることができると考えられるからです。

情報を視覚的に伝えることの有効性については、発達障がいのある当事者の発言からも明らかになっています。

例えば、発達障がいのあるテンプル・グランディン氏は、その著書のなかで「絵で考えるのが私のやり方である。言葉は私にとって第二言語のようなものなので、私は話し言葉や文字を、音声付きのカラー映画に翻訳して、ビデオを見るようにその内容を頭の中で追っていく。だれかに話しかけられると、その言葉は即座に絵に変化する」と述べています。自閉症をもつテンプル・グランディン氏が、著書の中でそのように語っているのです。

また、同様に発達障がいのあるグニラ・ガーランド氏も「私の場合、言葉で説明を聞いても、頭の中で絵にならなければ、どこかへ飛んで行ってしまふ。あるいは、単に言葉としてだけ意識に残り、"構造の面白さ"や"語感"を味わうだけで終わってしまう」と述べ、ています。先のテンプル・グランディン氏と同様に「情報を視覚的なものとして処理することが得意である」と述べているのです。また、ウェンディ・ローソン氏も「私の障害、私の個性」という著書のなかで、「私にとっては、書かれたことばの方が、話されることばよりもずっとわかりやすい。音声の会話を消化して、それぞれの単語にくっついている意味を理解しようと思ったら、ページに印刷してあることばを目で追っていくよりもはるかに時間がかかる。きっとこれは、人との会話だと、ことばを聞くほかに、相手の顔の表情も解読しなければならないし、ボディ・ランゲージも研究しなくてはならないせいだと思う」と述べており、人との音声による会話が苦手であり、それよりも文字による理解の方がよいと言っているのです。

このように、多くの発達障がいのある人たちが、聴覚的な情報処理に比して、視覚的な情報の処理の方が得意であると述べています。発達障がいのある当事者がそのように言っているのですから、彼らが語っていることを参考にして、支援の方法を考えていくことはとても重要なことであると思われる。

今、ここで対象としているのは大学生なので、今日の日本のシステムのなかで、大学まで進学してきている学生であるということなので、文字の読み書きについては一定以上の力は身につけているであろうことは想像することができます。つまり、文字などの情報は支援を行う際に有効に使うことができるということになるのです。

ある方が相談に来たことがあります。アスペルガーという診断を受けている方です。その方は、自分に発達障がいがあることがわかってホットしたといいます。苦手なことの原因がわかったからです。今まで、人の気持ちがわからないということで悩んでいたのです。自分で工夫する方向がわかったので安心したのだそうです。これまでちがった努力をしてきたのかもしれない。しかし、原因がわかったので、努力の方向も見えてきたということでしょう。得意なこと苦手なことを理解できると、そこから新しく出発することができると思われる。だから、相手に合わせて、理解できる方法で伝えていくことが支援者としての大きな役割なのです。

今年一年の目標を、相手にわかるように伝える努力をするとうですか？実践してみたらどうでしょうか？

### 坂井聡先生の紹介

(プロフィール)

香川大学教育学部卒業 金沢大学大学院教育学研究科修了、香川大学教育学部附属養護学校など養護学校教諭を経て、現在香川大学教育学部障害児教育コース准教授 1997年 自閉症のコミュニケーション指導で辻村奨励賞受賞

(著書)

暮らしの中のコミュニケーション（やまびこの里） クラスルームコミュニケーション（こころリース出版会） 自閉症や知的障害をもつ人とのコミュニケーションのための10のアイデア（エンバワメント研究所）など